

提出締切：2009年4月20日（月）

2008年度 研究の国際化推進プログラム「研究成果の国際的発信強化」 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 氏名：	産業社会学部・教授 遠藤 保子
研究テーマ	モーションキャプチャを利用したアフリカのダンスに関するデジタルアーカイブと学際的研究	

I. 「成果発信」の目的・意義の概要

今回の国際的研究成果発信の目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。

1. 国際的研究成果発信の目的・狙い:以下のとおりである。
 - 1-1 優れた研究業績を有するナイジェリア人若手研究者を日本へ招聘する。
 - 1-2 本学においてタンザニアの舞踊団6名(08年度林原財団助成)によるモーションキャプチャを利用したデジタル記録を紹介する。
 - 1-3 院生も交えデジタル記録の解析結果に関する討議や意見交換を行う。
 - 1-4 ベニン大学において本研究成果発表と共同討議を行う。
 - 1-5 日本スポーツ人類学会第10回大会において研究成果を公表する。
2. 上記の意義・必要性:以下のとおりである。
 - 2-1 無文字社会であったアフリカ、特にナイジェリアの芸術は、そのルーツや現代の芸術を知る上で必要である。
 - 2-2 ダンスをデジタル記録することによって、ダンスの熟達度、年齢差、性差等を表現する特徴量を抽出し、定量的解析が可能になる。
 - 2-3 3次元CG技術を用いて再現表示することは、無形文化財のデジタルアーカイブとしてUNESCO等国際的に期待されている。
 - 2-4 院生も交えた研究会を実施することによって、若い人材の国際性を養うことが可能になる。
 - 2-5 本学の国際化戦略に際して、アフリカも国際提携をすべき地域である、と指摘している。

II. 「成果発信」の成果と今後の展開計画の概要

今回の国際的研究成果発信で得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。

1. 「成果発信」の成果:以下のとおりである。
 - 1-1 日本スポーツ人類学会第10回大会研究発表「スポーツ人類学と開発教育」於:早稲田大学 09年03月30日
 - 1-2 Guest Speech「Expedition to Wonderland: Dance, Music and Society in Africa」at Benin Univ. 09年02月24日
 - 1-3 林原フォーラム講演「今日のアフリカにおける舞踊と社会」於:青山学院大学国際会議場 08年11月20日
 - 1-4 林原フォーラム基調講演「今日のアフリカにおける舞踊と社会」於:山陽新聞さん太ホール 08年11月16日
 - 1-5 タンザニアの舞踊団を本学に招聘し、学生に対してダンスの紹介とモーションキャプチャによるデジタル記録紹介 08年11月13~18日
 - 1-6 Dr. C. Ugolo & Miss A. Ekpenyong of Benin Univ. と「ナイジェリアのダンスと社会」に関する学生との討議 08年10月5~11日
 - 1-7 日本体育学会第59回大会 スポーツ人類学ポスター発表「今日のアフリカの社会と舞踊の記録・保存・伝承 - ナイジェリアの舞踊とモーションキャプチャ - 」於:早稲田大学 08年09月11日

補足 研究成果を利用して、開発教育のための教材DVD作品を制作した(08年度外務省主催第5回開発教育/国際理解教育コンクール素材部門(映像)特別審査委員賞受賞)。
2. 今後の展開計画の概要:以下のとおりである。
 - 2-1 モーションキャプチャを利用したアフリカのダンスの総合的研究を継続する(科研費基盤研究(B) 2008年度~5年間)。
 - 2-2 上記の研究成果を発展させ、開発教育/国際理解教育の教材開発を行なう。
 - 2-3 アフリカの研究者を短期間招聘し、本学の教員や院生と討議・意見交換を行なう。

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。